

礼拝プログラム

2017年10月15日

司会: 福島兄 奏楽: 西井姉 通訳: 大倉師

前奏: Prelude

賛美: Hymn

使徒信条: * Apostle's Creed

アナウンスメント: Announcement

牧会祈祷: Pastoral Prayer

感謝献金: Offering

メッセージ: Sermon

『よどんだ心はきよまります』

Stagnate Heart will be cleansed.

賛美: Hymn

頌栄: Doxology

祝祷: * Benediction

* 印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のままで結構です。礼拝メッセージは英語に訳されます。必要な機器を会堂入口にてお求めください。Please feel free to remain seated or sit down when the congregation is asked to stand. The sermon will be translated from Japanese to English. You can pick up a translator device at the entrance of sanctuary.

アッシャー: デイチ姉、クロセティー姉、

グリーター: 本多姉、コーツ姉

ナーサリー: スタンクリフ姉、ストーン姉

チルドレンチャーチ: 西井姉、シラ姉

セキュリティー: 井上兄

来週、22日の礼拝

司会: 川久兄 奏楽: ボウト姉 通訳: 大倉師

メッセージ: 「キリストと共に死に、キリストと共に生きる」

賛美: 「主と」(メッセージ後)

アッシャー: 町田姉、ランドール姉

グリーター: ワトソン姉、スカーレット姉

ナーサリー: 町田姉、カーター姉

チルドレンチャーチ: 川久姉、奏姉

セキュリティー: 福島兄

おしらせ

本日の礼拝後の予定

コーヒーアワー、男子会、婦人会、日語執事会

■今日の礼拝によるこそいらっしやいました。心より歓迎します。また続けておいでください。

■大倉牧師は九州聖会ではたらきを祝福のうちに終え、昨日、帰国しました。皆さんのお祈り、また大川先生のメッセージのお取次ぎ、ありがとうございました。

■10月23日(月)から25日(水)まで六人の牧師がオレンジ郡に集まり、修養会委員会をもち、来年の修養会のために祈り、計画をたてます。

■11月10日(金)、午前10時から正午までオハイオ州コロンバスにあるますダブリン・バプテスト日本語チャペルより杉田政志牧師をお招きして集会をもちます。集会後、ポットラックランチを楽しみましょう。

■吹上信一先生のメモリアルサービスは11月4日、午後2時30分より、サンタアナのウィンターズバーグ・プレスピテリア教会でもたれます。2000 N Fairview St, Santa Ana, CA 92706

今週の予定

| | | |
|--------|----------|----------|
| 18日(水) | 水曜集会 | 7:30pm- |
| 19日(木) | 木曜集会 | 10:30am- |
| 20日(金) | 会報発行日(英) | |
| 21日(土) | 母子の会 | 10:00am- |
| | ユース | 6:30am- |

来客不慮

『そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である』(ピリピ1:20, 21)。

私達の教会は北米ホーリネス教団に属しておりメソジストの流れをくんでいます。そのメソジストの創立者であるジョン・ウェスレー(1702-91)がある時、こんな質問を受けました。

「明日の夜12時に神のみもとに召されると分かったら、どのような用意をしますか」。

ウェスレーは穏やかにこう答えました。「特別に用意などいたしません。予定通りに過ごすだけです。これからグラウセンターに行き、今晚と明朝の説教をし、その後、チウクスバカーへ移って説教をします。夜は兄弟姉妹と会って、信仰の励ましをし、マルチンさんの家に泊めていただきます。マルチンさんのご家族と団らんのひと時を過ごした後、神様に祈り、いつものように10時にベッドに入り、翌朝は栄光の国で目覚めるだけです」

かつてパウロは「わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である」(ピリピ1:21)と言いました。通常、「生きること」と「死ぬこと」の間に私達は大きな隔たたりを感じ恐れをもって生きています。しかし、パウロにとりまして、生きることと死ぬことの間隔が神を知れば知るほどせばまり、最後には生と死が一つとなってしまいました。ウェスレーもまさしくそのような思いで生と死を受け止めていたのでしょうか。私もこのような死生観に少しづつ近づくことができれば・・・そんなことを思わされています。